

門へ遠13 結
番 22089
巻 38

繪本豊后勲功紀四編卷之八

目録

秀吉播州下向諸所城攻

属山中出身

然見川謀秀吉大破直家

属羽柴凱陣

豊后勲功紀四編卷之八



信長見督羽柴中國發向

屬 賀相謀反

後有基國決信義諫長治

屬 託子思田

繪本豊臣勲功記四編卷之八

櫻澤堂山 編輯

秀右擧列下向諸所城攻屬山中出身

樹密ふまふ集つて水深けき魚聚る人々仁義小原々れハ貴
 賊かきつて追慕止然かど小羽柴筑前守秀右ハ志貴山攻
 の其際石山本願寺ハ厭守として大坂境小立らるら。一様か起
 ったかども。秀右志く逐友し。まら。極威に在番し。る。際
 日多く松永滅亡し。和州平均に。る。由。諸將倭大坂一掃
 陣せし。秀右在番。其苦を適き安土へ冬候に。勝軍と賞
 して。る。小。信長公も。悦喜ま。今ハ急なる敵徒も
 々れハ秀右擧列下向。國中。平治を。君の命せ

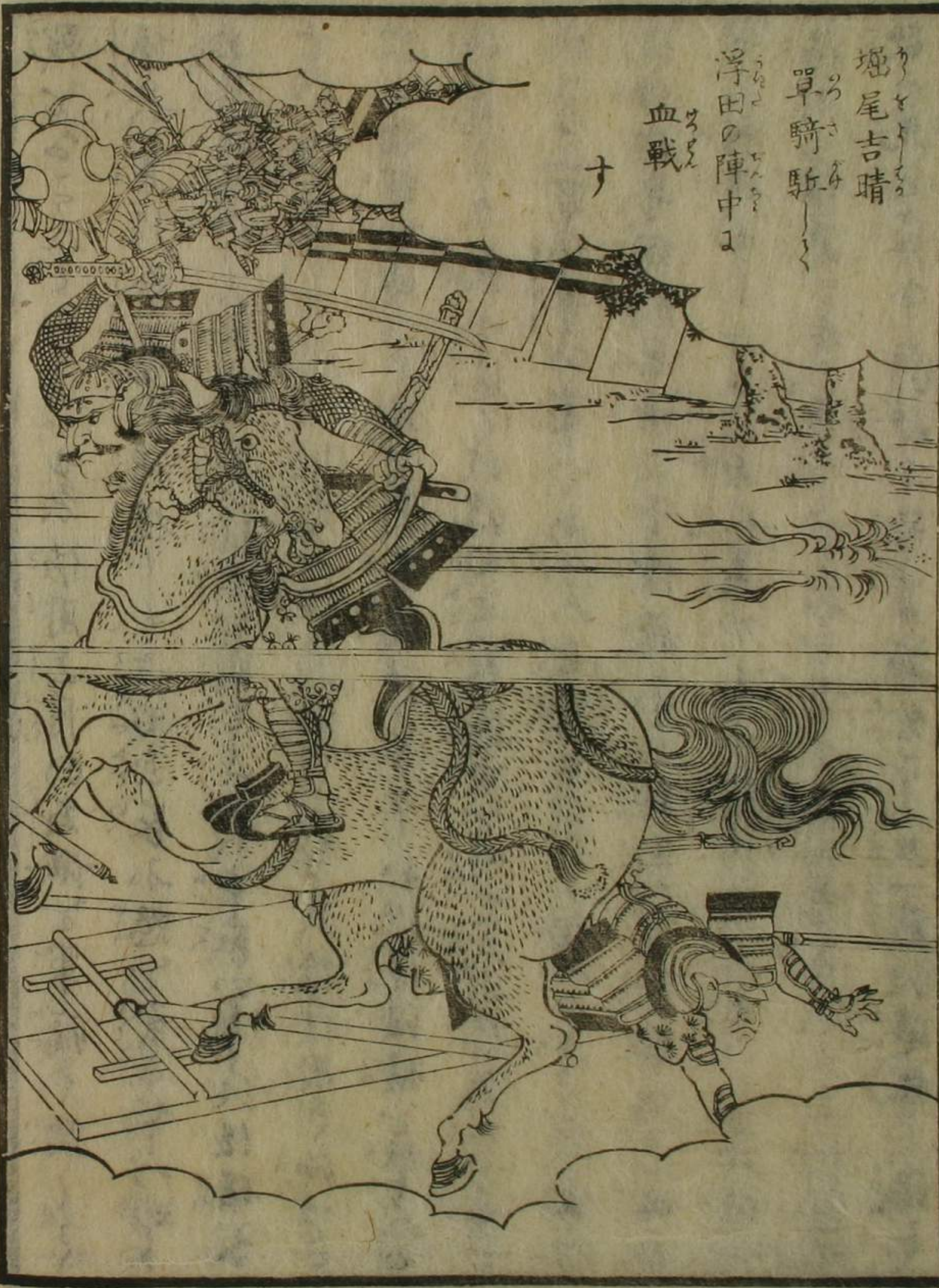
と慕つて速小准儀を。同年十月廿二日。播磨下らまきり。姫路
 備前此任人小寺左兵衛清政職。黒田官を清孝高快より下向城お侍
 たりが。着る清政職いりある。お急小や。羽柴筑前守下向と。听姫路
 城出く。儀後ある。鞆の浦小藝居せり。こま小よりて。黒田官兵
 清小寺小代り。秀右を。阿弥陀が宿。仰南殿。姫路まで出迎。入道
 教を。ふして。姫路小列。羽柴城本城へ。請入。是。加藤。後。秀。時
 湊。賀。儀。の。諸。士。ま。ま。く。區。住。居。を。こ。め。随。分。味。意。を。く。待。款。け
 る。小。七。秀。右。孝。高。が。信。義。と。威。に。國。中。平均。の方。術。を。衆。民。安
 運。の。終。ま。ご。万。事。軍。ま。は。高。議。を。隔。心。を。く。結。交。を。と。然。ば
 國。中。の。地。頭。衆。後。が。さ。ら。軍。馬。城。奔。し。こ。ま。を。攻。む。屋。形。小。高
 議。を。定。む。茲。小。佐。用。の。城主。福。原。隼。人。と。い。ふ。者。阿。室。儀。兼。此。浮

田。旗。下。し。れ。ば。後。田。の。幕。下。に。属。從。せ。は。因。て。秀。右。を。これ。を。攻。ん
 と。又。小。寺。人。を。引。率。を。し。佐。用。佐。用。根。根。の。城。へ。推。進。る。魁。軍。ハ
 黒。田。孝。高。あり。加。藤。後。孝。高。片。桐。堀。尾。脇。坂。崎。須。賀。を。い。ふ。一。括
 百。千。の。勇。猛。士。黒。田。官。を。清。と。一。隊。に。を。り。正。急。小。を。り。て。攻。起。る。秀
 右。を。り。抹。殺。推。把。諸。軍。を。懸。す。一。徹。獨。の。城。小。遠。際。取。て。上。方。兵
 士。の。弓。矢。の。量。來。弱。を。り。と。唾。を。る。を。只。一。息。小。攻。陷。せ。し。声。城。奮。奮。え
 せ。號。起。ま。は。備。新。る。北。士。軍。何。え。を。り。も。猶。豫。を。り。さ。我。方。ら。じ
 と。探。小。提。着。總。兵。免。小。攻。着。る。城。を。棄。も。命。張。限。を。友。と。尋。途
 と。防。り。か。も。進。兵。大。勢。ある。此。を。さ。る。に。炮。矢。刀。槍。城。風。を。り。猶。輕
 ん。ト。も。畏。も。せ。ぬ。鉄。皮。金。骨。の。勇。士。を。れ。射。ま。も。棚。も。疎。も
 せ。は。遂。小。一。方。城。を。破。を。り。後。原。隼。人。滑。り。と。落。行。と。ろ。城。黒。田。官

之清蹟追蒐く殿捉り。これよりて依用の一城忽地落去せ
し久。香を破竹北勢に。そをより備播の境ある。上月の城依用郡
開るの。小推進く。只一刻小攻陥し。継く福屋一掩殺す。福麻竹尊
と捕圍む。時小官を湯野柴小朝ひ。あまり烈しき勇戦するが。
斯て六諸軍も疲勞せん。緩く漸攻ありさあやとまり。只一城所て
那柴秀右。後小もつ。此練を。然るも今殺す。めて。
款小徹回家の勇猛を。見せしむ。此時を。這小おる。その給
こ。後知し。め。かく。响。累て合戦する。機會小。心寧く破るるを。
殊更是等の款案へ。自軍と。ま。も。益。な。れ。舊地小。進。殿
と。る。り。又。謀。の。種。も。あ。ん。依。前。の。浮。田。在。家。の。隣。國。之。能。又。の
勇。將。に。し。く。今。元。利。家。小。属。と。る。り。これ。の。浮。田。氏。引。出。し。

戦と。さ。ん。と。り。か。あ。依。用。上。月。の。友。城。と。軍。痛。く。陥。し。く。
城。兵。も。皆。食。志。く。殿。捉。し。も。浮。田。在。家。小。怒。を。發。せ。せ。つ。わ。り。
出。馬。せ。ん。が。あ。り。今。福。屋。を。圍。し。れ。ば。在。家。か。あ。り。後。援。を
す。し。只。遠。く。の。當。城。を。急。小。攻。る。小。登。ふ。か。は。推。提。圍。く。待。こ。こ
に。指。揮。を。傳。へ。秀。右。の。隊。備。城。と。こ。に。む。隔。後。援。を。擊。入。と
待。蒐。り。案。小。遠。く。浮。田。在。家。遠。中。を。所。て。大。小。怒。り。上。方。武。士
の。一。方。二。万。何。量。の。事。や。あ。ん。在。家。と。つ。つ。向。ふ。に。及。ん。長。松
紀。伊。の。守。岡。別。助。後。之。千。餘。騎。小。く。馳。向。ひ。上。方。勢。を。追。撤。ら
せ。と。指。揮。か。し。あ。あ。人。兼。听。之。千。餘。騎。城。引。率。し。舊。地。に
福。岡。一。推。進。る。秀。右。遠。小。れ。を。見。く。在。田。孝。高。小。く。は。信。ひ。遠
款。は。是。在。家。か。あ。り。徒。小。待。る。憾。念。さ。し。只。一。戦。に。追。撤。し。落。く。

堀尾吉晴
單騎馳
浮田の陣中
血戦



浮田を打出しんと隊位を多く得たかどなく。秀吉が圖小遠を以
 浮田の長尾長弘紀伊守に討たれ二千餘騎共除逐く推進
 を先陣ある軍田孝多五百餘騎小く馳發し。浮田勢小液合微
 塵になきと接起る。浩るこは羽柴が陣より。堀尾茂助右晴
 只単騎馬を馳せ。款中深く斬投し。あまりに強く進ませける
 由急継く自軍此一個もなき。長弘の隊れ兵士重々を毆捕令
 推提稠る儀。正魁の騎馬武者五六人を斬削して破らんす時
 銃丸花束けて右晴が。上股痛く撃れり。海の茂助も遠痛
 癩ふ。擡さこは信せされへ。やうく危なく見えたるは秀吉
 酒く指揮成る。堀尾を毆せむとや蒐き。加藤福守片
 桐脇坂蜂頭雲霧を一齊小探發せられたる勇士。銃節向

を法くつしうけ。正魁にありと突發せ。浮田が三千これがしあに忽
 地鼠と擡岸され。倭僮ふあるは軍田孝多。得し方と自勢を烈
 中して。單騎急に接起む。長弘紀伊守。忠利助。心へは長小
 たるるといども。乱起する自軍の去士。達整は處さ方所め
 多く。借小崩まて。敗走を。秀吉さびしく。こを逐蒐。款々
 果多。毆提く。總勢一吐に捷喊。燈さ。を。地小福。畠の。城に。推進
 せ。勝小。案する。勢威。小く。攻着。く。遂小。案捕。を。城を。毆。こ。二
 百餘人。軍。收。めて。姫。路。の。城。凱。陣。せ。んと。する。その。時。蜂。頭。質。
 青本。倭。大。將。小。朝。ひ。上。月。の。城。い。り。され。守。兵。残。一。玉。も
 ぞ。と。同。を。秀。吉。右。ち。共。ひ。那。城。の。遠。方。を。ち。り。て。益。さ。し。其
 於。か。る。浮。田。家。より。暮。び。守。兵。を。籠。ら。せ。た。小。兵。糧。矢。統。を

十分小納させ。その節系捕人と大膽不放の討らひ。孝なる
 いふ威服し。然やと小淳田壘家。自軍の敗軍。大不
 怒も。さうさ大勢。引率し。上月の城。小推進せりし。が。
 款一人もあざされ。真壁。彦九郎。治次に。五百餘人を付與し
 て。上月の城を相打ちせ。其釋矢銃を多く籠。其方の岡山
 一帰陣せ。さぬ羽柴。遠由と所と等しく。然や推進。兵釋矢
 銃。伐奪捕らんと。言敷。り。後小雲。別。尼子家の浪人。山中。麻之
 助。幸盛といふ者あり。武勇。拔群に。り。力量。雙び。に。名士
 あり。過。は。永。禄。七。年。の。酒。富。田。の。城。を。先。利。小。奪。た。れ。尼。子。家
 滅亡に及び。幸盛。別。忠。大。義。を。費。し。万。乞。主。家。伐。再。興。せ
 ん。と。將。佐。の。餘。類。伐。馳。集。本。福。寺。に。出家。せ。尼。子。晴。久。が。孫

と。迎。へ。幸。盛。これ。伐。還。信。させ。尼。子。孫。田。部。勝。久。と。号。らせ。り。
 是。に。從。ふ。軍。倫。ハ。山。中。麻。之。助。幸。盛。同。控。之。壘。太。刀。原。源。左。衛。門
 兼。殿。豊。後。守。岸。左。馬。進。元。田。豊。前。守。池。田。市。捕。熊。谷。新。右。衛。門
 大。野。重。兵。清。墨。野。左。衛。門。清。尉。秋。之。基。助。寺。本。半。右。衛。門。龜。井。新
 十。兵。衛。石。橋。久。之。角。池。田。基。三。右。衛。門。一。之。武。士。六。十。三。人。織。田。家。に
 帰。属。し。信。長。小。謁。見。中。國。征。伐。の。事。あり。先。陣。小。向。ひ。ま。う
 さん。と。あり。ひ。入。り。登。え。り。小。ぞ。大。將。その。智。勇。伐。威。稱。せ。れ
 尼。子。の。家。を。再。興。させ。本。領。出。雲。を。揚。え。り。之。を。む。ひ。怒。小。命
 出。され。て。羽。柴。筑。前。守。に。属。せ。り。之。を。山。中。麻。之。助。大。不。款。び。
 主人。勝。久。を。殺。す。後。之。八。百。餘。人。伐。率。ひ。て。壘。地。小。據。別。下
 着。せ。り。秀。右。隊。小。加。え。り。一。忠。齋。を。竭。さん。と。軍。ある。目。伐

東海道四國志



山中幸盛
南都東福
寺ふ來りて
尼子の僧せ
還家せむ

東海道四國志



相侍りたり。秀吉若び上月城改稱さんと評議あり由急山中
 幸盛進之出一隊をりりく系捕らんと望之る由急流前
 而便これを許しけき。麻之助倣大不悦び主人勝久を大将
 して。後兵八百餘人を率ひ上月の城へ推進す。途中上月へ聞け
 き。真壁彦九郎大に驚た鬼神に像さ山中不捕圍まれてハ
 潜ると。款進せぬ際小上月の城城子へ逃退く。こゝに圍て勝
 久主従力を勞せぬ城小投羽柴一勢と注伸に。諸亦浮回直家へ
 上月落城を大不怒。さぶか推進人と謂々々。真壁が勇次
 弟四郎治時兄が退去城朽滅あり。万石小段に命じ玉をへ上
 月此城を戻返し。尼子主従を改投て兄の恥辱を雪ごた。と
 頼ふ小直家勇氣を感。これ誠許され々々。加勢をいさ。と一

千六百有餘人上月境へ推進。が當天も暮に向々々。ハ夜
 軍をとも詮ふ。と上月の城を相滿。と六十餘町に。く野陣城
 様。小心も。く休息せ。山中幸盛。こ。城所。柴土面兄が恥辱。城も
 く雪かん。と。る。志。な。れ。バ。定。め。く。必。死。の。勇。を。な。さ。す。其。制。勢。も
 多々。色。バ。明日。と。待。く。戦。り。自。軍。の。損。亡。か。う。く。と。不。夜。設。を。か。して
 退。拂。え。ん。と。て。八。百。餘。騎。引。率。ふ。子。丑。此。更。際。城。を。打。出。不。意。に。款
 陣。へ。撃。投。々。色。バ。浮。回。勢。懐。愕。さ。一。遮。も。せ。ぬ。乱。走。して。戦。死。者。數。に
 不。成。初。め。隊。將。五。發。治。時。も。礼。軍。の。う。ち。に。戦。損。を。一。猿。名。續。に
 敗。北。一。々。色。バ。山。中。倣。十。分。小。勝。利。を。得。て。上。月。の。城。へ。退。返。し。羽。柴
 が。方。へ。注。伸。一。け。き。バ。秀。吉。有。軍。慮。を。賞。養。し。革。小。使。者。派。遣。し
 れ。く。勝。久。城。親。山。中。太。刀。原。備。勢。悉。く。降。陣。を。慮。し。と。ま。り。し

遠しなるにや。山中悔これと訝るふが。定めて秀吉所存
ありんと。尼子主従是非なくも。姫路の城へ退返し。思材やある
と。訊ねれば。秀吉會て。吾今屢く戦ふ。之益の事。張るるに
俣られ。これ上月の城を餌とす。中國勢。我敗んがためなり。
是下。俣退去とす。所。直家亦。渡兵士と。籍人。然し。達連。合
戦。浮田家。涼沉の境。されば。自軍も。全休。するん。は。あ。其。着
策。其。期。不。際。で。指揮。を。負。し。と。東。され。る。は。山中。悔。派。を。下
め。と。て。羽。柴。が。智。勇。を。感。嘆。す。款。の。渡。渡。を。窺。ひ。たる。這。時。浮
田。和。泉。吉。へ。若。び。真。壁。が。敗。軍。を。或。の。贖。を。或。の。愕。然。駛。率。戦。え。を
く。上月。の。城。に。取。有。を。論。は。さ。る。小。款。一。人。も。な。れ。う。を。ま。さ。亦。復。を
士。成。籠。籠。人。と。これ。を。高。評。を。し。たる。時。上月。の。使。人。と。り。し。上月

十郎景利。望。ま。て。彼。城。派。ち。し。人。と。い。ふ。直。家。收。ま。京。利。小。後。事
と。堅。く。約束。を。し。矢。考。不。命。七。と。副。將。と。し。て。一。子。六。百。の。勢。派。附。與
上月。の。城。へ。赴。く。む。彼。友。人。ハ。大。小。饒。を。也。地。小。彼。城。へ。報。を。て。城。を
堅。固。小。守。持。し。たる。羽。柴。秀。吉。を。これ。派。所。と。す。報。を。吾。圖。に。當
り。し。れ。然。バ。ま。づ。う。出。軍。を。し。城。を。圍。ま。く。直。家。と。句。引。さん。と
陣。徇。し。二。万。餘。騎。の。軍。勢。を。率。ひ。也。地。小。上月。へ。推。進。て。城。を。幾
重。に。う。捕。圍。ま。す。水。漏。と。し。と。攻。極。し。る。を
熊。見。川。謀。秀。吉。大。破。直。家。属。羽。柴。凱。陣
蕭。瑞。曰。く。と。り。疾。風。ハ。勁。系。城。知。る。故。蕩。ハ。忠。臣。を。織。る。く。宜
み。ろ。か。る。山。中。康。之。助。幸。盛。亮。秀。吉。が。隊。を。離。き。く。秀。吉。が。旗。下
に。属。せ。し。ハ。智。勇。其。の。類。と。甘。ん。び。厭。洞。ハ。捕。ま。り。上月。の。城。中

にハ上方勢小巖しく圍まき。防戦難危なりといふども。直家後
援の約ありしをこれ破り小牢城しつる。進まぬ日く悪くも。
朝霧さるること塵埃の如し。城中にも又と色小輸と罵り笑ふ
れも小しと。奔陣も人乳色もなれば。傑氣の勇士倅大子魚
爆系破らんと號せり。秀右を制して日當城いと城
攻陷せんこと。當手を翹とより易しといふも。只此城ハ直家を
引んがため小圍をなれば。かゝるに喜小菟もさるべ。吾直家を
破る後當城の兵を悉く虜小せんと教ふる。直家が此地
理小精し。前田三八といふ者に命を付候ふまゝとさたりし
が。浮田和泉も並家ハ上方勢の再び来りて。上月此城を圍ま
しと。然るに後援して羽柴と申す。政捕人と當天ハ十二月

十日。二万あまの勢を率ひ。上月當りて奮費を。斥候なりたる前
田三八取返して遠事城筑前と通とる。秀右所て大
小悦び。吾あり小圍に入ると。申す。前田孝高小命じていふ中。
是下ハ當國の兵士。二万人を率ひ。上月の城を。二十町程西小
到り。浮田が崩さる。逃返る。路の傍に樹木の茂みに。埋伏し
相待る。其謀ハ那殺と謀と合せり。孝高仔細小
系服し。西南に當りて。出行り。次小尻子主従と等集り。是下
達ハ之子餘騎小く。熊見川の西岸を。草陰に埋伏す。浮
田勢自軍退る。過木川を歩くと見ると。一時小散りて。敵は後
陣を攻起す。縦令先陣盛返とも。これ小構を以て敗れ。八方に退
散し。在地下上月を圍むし。最細中り命を。次小別不

孫右衛門重棟を呼出し。是下ハ選兵五千餘人。伏見率一。惣見門
 下。小埋伏を爲し。時刻試合せ。蟻出。慌忙先陣を。之を二之に
 攻め。其時の方術ハ那般。と謀。之を別所重棟。諸受。去
 る。次ハ秀吉自執の。うち。蜂瀬賀小六。同又十郎。神子田。本左
 衛門中村。孫平次。堀尾。後助。脇坂。基内。こ。こ。此勇士。六千餘人。此
 選兵。伏見。惣見門の遠方。岸の左右に埋伏させ。暗号。次。以。露
 突。ま。と。討議。と謀。て。波。不。遠。く。備。秀。吉。ハ。加。藤。福。徳。片。桐
 重。井。茂。も。め。と。と。惣。長。虎。士。の。撰。取。者。も。子。餘。騎。以。て。是。如
 く。上月の城。被。提。圍。す。直。家。来。て。偽。走。せ。よ。後。令。在。家。と。遂。極。す
 とも。か。み。に。毆。提。こ。と。な。れ。後。小。用。ゆ。り。こ。こ。を。河。邊。と。残。る。隈。外
 く。指。揮。代。傳。准。後。悉。く。愁。ひ。り。さ。ば。ま。り。備。不。分。配。して。

敵の来るは相傳々々。斯とも。初。は。浮。田。重。家。先。敗。の。恥。辱。を。言
 ぐ。と。憤。怒。ハ。猛。氣。兇。波。衝。き。激。音。起。り。推。進。す。る。秀。吉
 形。と。視。る。も。一。千。五。百。に。城。を。圍。す。二。千。又。百。一。面。小。隊。伍
 させ。後。援。の。浮。田。重。家。子。當。り。戦。え。ん。と。構。へ。り。浮。田。勢。ハ。近。づ。く
 や。い。り。や。多。勢。ハ。威。小。を。下。た。る。魁。隊。の。会。士。二。四。百。鳥。銃。少。敵。軍。蒐
 一。と。此。に。一。同。鎗。突。懸。へ。一。只。一。棧。に。搦。破。と。其。烈。に。此。と。墜。雷。の
 像。一。羽。柴。勢。も。渡。合。戦。え。ん。と。か。り。く。る。が。諸。士。も。や。あ。り。ひ。ん
 列。と。案。し。く。崩。れ。起。秀。吉。大。小。これ。を。怒。り。て。遂。に。自。軍。ハ。奉。止
 か。な。浮。田。と。叙。て。の。圖。合。小。鄙。怯。波。を。と。呼。な。れ。も。耳。は。も。い。さ。に
 散。れ。せ。り。浮。田。重。家。これ。と。見。く。然。こ。を。ゆ。め。と。う。ち。笑。ひ。自。軍
 と。怒。り。軍。勢。急。に。さ。つ。か。り。正。魁。小。遊。蒐。る。これ。ふ。も。も。羽。柴。勢。



豊臣記四巻之六

熊見川
播州
秀吉の
寺謀
浮田直家と
破る



豊臣記四巻之六

十一

為流 鎧太刀馬甲曹 抄并投棄 財走して。魁見門城うち渡り
とも見さして 逃行を。勝小系なる 浮田重家。最後の思慮もつゝ
正業にありて 指揮成りし 疾進極く 毆捉と同く 小橋投人
先業長 紀伊守。死守志摩守。墨城守。大に制して止む
とも。更ふこれ 城所。速きに乗て 非活までも。手取
たり々々 不憚雄の 名まじく 馳走も 門へ地投て 東面
る。重家も 今の中流まで 接し 謀てを 進もく。胸小門の 西岸
る。深叢のうち 小埋伏し 居る。尾子孫 田部勝久 山中 麻之助 太刀系
源を 清俊 拒決し 勇士二千餘人 煙を 発し 起立 浮田が 後陣へ
撃て 蒐て。魁隊の 去す二百たり。為流 烈しく 呼ぶ。蒐 縦横を
破し 破れば 浮田の 後陣 これと 思設けぬ事 といひ 春之

此勇士に 征起らる。忽地 後備小系 石成 尾子 部隊の 二千餘人 得
た。大急と 擧起 斬伏 面もあつて 改着る。重家 これに うち驚き 先
隊の 去を 呼返えんと 心城 焦燥 其の 所へ 秀右 暗号を せしめ 敗
走さし する 加藤 後守 片桐 友房 五千餘騎 旋風の 像く 取て
返す。浮田が 先陣 小掩殺し。今こそ 誠の 武勇を 見せしめ。上言 武
士の 筋骨を 知れと 左方に 突破し。右に 小殺利し。面敵 八段を 擧
げし。背敵 八段 泥ふを。その 鎧と こと 怒雷 像く 面を 向て
し。こも なるべ。浮田が 魁を 大に 敗せし。我れ 先と 逃返る。敵多し
ま。巴川の 淺瀬を 涉り 返さんと 胸小系 右亦 存び 暗号の 一
炮を 响せし。河の 左右に 埋伏し たる。増原 重成 堀尾 頼政 六
千餘騎 ぼく 突起 根柢 棄きし。浮田 勢を 魁見門へ 遁投て 吹伏

豊臣四将之



其二

豊臣四将之



棚伏するがとふ。浅碧なる河水も。忽地紅と變流して。溺死する
 も負多るに。蜂頭賀堂の一千餘人。統先整く。敵薙る。統
 に札殺せしき。塵とを見つらる。百死一生の軍。遠く西岸。攀
 より。毒蛇悪虎の頭を。造出する心意。一息次んとする。と
 一流の梢の樹。隙より。別所孫右衛門。みち好勝。喊を為す。多銃
 代。矢久。蒐。疲果する。浮田勢を。骨破。微塵と。散。四角八面。小遊
 撲。嘔叫で。接起る。羽柴が。去も。大軍。川。渡。別所と。借
 小。息。継。遊。起。浮田の。将。方。僅。人。馬。疲。一
 足も。進。退。極。の。時。極。最。中。餘。力。も。投。海。
 活。る。心。意。大。將。志。家。も。危。長。紀。花。房。園。を
 んと。踏。止。遮。戦。ひ。主人。代。や。中。敵。これ。不。用。て。妻。家。へ

残。之。從。上。月。の。城。を。後。面。不。一。三。十。町。を。り。ま。る。と。り。多。力
 俸。ら。小。疲。果。て。馬。脚。も。進。得。今。決。て。も。地。が。一。款。も。や
 う。中。遠。去。れ。ば。遠。小。要。時。休。息。な。い。後。方。有。補。も。四
 道。の。後。集。拾。收。火。矢。煙。出。し。焼。起。合。後。面。所。願。も。款。も。多
 以。半。死。木。生。小。せ。自。軍。の。兵。車。二。三。千。や。ど。集。り。多。多。も。
 東西。の。用。小。達。な。れ。兵。の。一。個。も。あ。び。息。令。次。河。へ。ら。れ
 然。も。進。来。る。款。も。な。り。け。わ。が。ふ。心。安。達。一。疲。と。休。め。ん
 と。ら。際。も。な。く。耳。下。に。暗。号。の。一。炮。响。と。む。樹。間。の。中。に。埋。伏
 か。した。る。黒。田。が。一。千。餘。人。の。うち。八。百。餘。騎。の。騎。馬。食。者。が。四。隅。八。面。よ
 り。敵。と。出。二。百。餘。人。の。兵。率。の。林。の。四。方。に。分。走。し。本。の。枝。揺。り。喊
 と。鳴。大。勢。此。俸。を。入。せ。う。けて。勝。考。統。統。際。際。く。霞。雪。の。像。と



飛一菟。烟立る。撲際より。擲出餘の野をせし。羊羣の穂より。橋
 勢。才生りりる。困をま。臆病神の腦後。小將。舌て。欲の多少。伏
 視分も。中へ。馬。兵。具。中。太刀。塗。やら。捨る。とも。なく。投出。し。従者。八。主
 成。願。ど。孫。子。又。祖。を。助。け。も。せ。命。を。才。一。室。を。ま。と。願。つ。起。引。逃
 走。る。大。將。浮。田。重。家。も。遠。慮。い。よ。も。中。を。か。り。ひ。ふ。不。意。致。う。これ
 て。了。得。の。直。家。魂。も。怒。れ。し。取。之。の。進。士。小。扶。け。も。幸。く。一。方。の
 隙。を。見。め。く。備。前。へ。こ。ろ。六。進。入。し。ま。これ。小。の。り。く。兵。具。兵。器。是
 の。踏。途。も。な。れ。が。如。く。捨。た。る。兵。器。拾。取。欲。の。馬。小。これ。を。負。せ。伏
 繞。り。退。返。し。浮。田。重。家。出。陣。す。二。万。六。千。と。さ。こ。え。し。も。降。陣。し。時
 へ。負。傷。を。い。ま。す。一。千。に。足。ぶ。り。々。ま。ば。怒。り。も。中。を。く。惘。然。し。り。升
 も。重。家。ハ。原。來。智。勇。を。兼。し。る。大。將。な。れ。ば。救。度。戦。場。に。趣。き。を。從

今。敗。軍。と。ま。さ。べ。し。く。遠。般。の。如。く。足。困。り。し。に。輪。ハ。更。々。せ。さ。り。し。が。叙。て
 倭。回。勢。の。合。戦。に。形。の。如。く。大。敗。る。し。虎。爪。狼。牙。成。ま。ぬ。れ。く。毒
 坑。を。出。し。意。味。し。つ。勇。氣。も。衰。小。衰。碎。け。矣。小。羽。柴。ハ。大。敗。り。と。倭
 田。家。小。降。し。ま。し。心。散。起。し。東。や。西。中。と。深。慮。成。め。ら。し。以。原。來。重。家。猶
 豫。の。心。あ。り。な。れ。備。前。利。家。の。馬。成。退。く。身。の。美。小。や。り。も。さ。る。ん。と
 運。成。重。家。小。據。武。川。姑。く。左。右。試。合。り。り。こ。を。是。秀。右。が。中。國。へ
 破。投。端。と。さ。り。小。な。れ。借。又。上。月。の。城。中。に。ハ。上。月。十。節。矣。若。六。弁
 七。一。子。ふ。百。餘。騎。ふ。く。堅。く。守。り。後。信。の。來。る。を。待。ち。る。が。其。甲。斐。も。な
 く。浮。田。重。家。脱。く。敗。軍。せ。し。ふ。ま。り。城。兵。是。に。驚。願。し。て。逃。出。ん。と
 歎。き。れ。し。も。と。も。城。外。小。尾。子。の。一。族。希。後。左。右。り。捕。圍。ま。て。出。べ。し
 虚。際。に。死。す。羽。柴。重。田。別。所。が。軍。勢。雪。霧。の。像。く。捉。綱。し。る。六。方。僅

諸隊を制して攻ませば降参の事許さるる由急城をめぐりて
 かく軟合城を圍ひて降参せられども大將上月十部ハ先小屯家
 前におわり。橋言吐るる面目をたさ。この城小大を放一族徒類
 二百餘人若叫びて輝死さるる。これによりて遠下を間夫後小流号
 一と地獄若とぞ呼ぶる。斯て秀吉軍を收め娘路帰らんと思し
 たるが。備當城を遠来小弁並に亦款方する。是士伐絶て款對せ
 る。亦遠方より。龍城を防禦の方便容易かり。いかにと一と
 評議さるるは。山中麻之助進出。俺們主従一隊を以て當城小
 堅く凝守置し。款敵万務推進するも。一旬二旬と持堪んこと難
 ことなるも。然るるうちに。筑前長門も。加勢に出軍す。

五千人。然るれば。款と追おんこと安らぐべしと。所望しけむ。是に
 信せ當城と。尼子主従小借与置。用賊あつて。是は。賊一人扶等ハ
 兼田別不小。命して。尼子を扶助せしめ。後事おこなうに。誓言して。
 十二月。央の當天。娘路の城に凱陣さす。播磨一圓に平均して人
 質捕盟期を堅ふ。殘るとも。残るも。政事相慈。遠中を安らへ
 注伸し。これハ。信長をなると。津威あり。いまも。二旬。汝經る際
 小播磨一圓と平均さす。播磨前を破つて。織田の威勢を志
 めすこと。古今を双の大切なり。あらた小安らへ。登城さし。播磨
 地の朱印。汝り。秀吉へ。貶賜する旨。命遣し。むひ。小安らへ。筑前
 守。愼ふ。是を奉受し。十二月廿二日。りて。播磨。娘路。突是。一つも。
 五十里。ちつと。道。汝經る。汝。別安土。一登城さす。播磨。合戦の。始

終を詳小言状し、たぐまのまは。信長亦喜收渡りなく、不動國行
の太刀小乙御前と称せ、茶釜とりて、手自秀者へ賜りけしべ。
筑前守面目儀施し、最りりかく謝し、そまひる。然るも同月八
八日勅命ありて、信長公を従二位小叙せられ、秀吉これ
を賀し、まいりせ。此歳も餘日なほふりて、信長と信小安と此城ふ
て、蔽くく、紙年せりきりなり。

信長見警羽柴中國發向屬賀相謀互

羽柴で天小虎に、魚淵小澄といひ、各其位小あり、成りて、若るも
飛ども、魚こまを養ふ、好中、魚低さ水小ありといひ、も、若るも
成早し、め、能せり、とを、謂ふ、め、若小、播州之本、加東、此、
城、至、別所、小、之、而、長治、同、小、八、而、治、定、へ、村、上、源、氏、具、平、親、王、
代、傳、

天守身七の、後、流、赤、松、治、泉、別、村、入、道、圓、心、が、孫、敦、範、足、利、家、の、末、孫、
敦、範、足、利、家、に、忠、功、あり、義、教、公、より、播、州、之、本、加、東、之、郡、
成、賜、を、そ、ま、り、己、後、武、名、を、滅、び、累、代、連、綿、と、相、續、し、て、威、勢、
く、た、ら、豪、家、なり、然、る、に、長、治、治、定、兄、弟、年、々、を、弱、早、なる、小、依、て、
年、の、ま、は、今、年、の、叔、父、久、内、山、城、守、賀、相、後、見、て、補、佐、し、り、
右、清、門、の、先、年、より、織、田、家、に、属、し、連、く、功、勞、あり、由、急、信、長、治、清、
成、り、原、く、懇、切、小、お、し、さ、る、兄、山、城、守、これ、を、嫉、み、備、後、
行、儀、に、違、ふ、別、所、の、所、領、を、も、川、と、源、右、清、門、小、掌、握、せ、り、
討、て、信、長、と、亡、さ、ん、小、如、と、之、夫、し、悪、心、忽、地、費、動、し、て、
に、隨、ひ、大、義、成、儀、と、心、を、極、め、我、の、秘、し、て、他、小、謀、
家、小、傳、屬、し、く、中、國、攻、め、慈、小、見、せ、り、大、將、入、呼、し、
これ、を、謀、

してその威ふ糸ト。糸部へ在地小攻登るんと既小野柴下向せり
 ぐこれ智勇に怖きとや。空しく安し帰し。を賀相を意なくおも
 ひしる。暮び討義を廻りしる。當年も暮く天正六年山城を圍者
 張り門く。毛利家の既攻を窺も志むる。小淳田重家が勅めふりて毛
 利の之家搦別へ出軍とを沙汰せり。ゆるゆ急足變便と賀相收ひ。綱成
 謀りし。信長へ使者をもて言容くる中。毛利家只今九州境の合戦際を
 此時とを宜け。再討目代と下され。俺們道路先陣して中國の地へ
 礼入へ。攻取とせり。新へくる。これ小依く。信長も暮び。秀吉も命せ。中
 國の探題。遠畿へ大國の軍中。小處して。近國の居悪を。探り。求く。賞罰を。小補せ。とせり。と。バ
 武門の面目。あて。ぐ。これ。既。所。奉。ま。り。い。げ。子。速。下。向。の。准。儀。と。し。
 同く。六年三月四日。江州。安土。城。廢。旅。を。其。陣。列。を。備。に。い。と。り。才。一。番。へ

本下小一郎秀長が隊伍にして先陣し。香統六十丁。奉行二人。長柄の威女
 條次小騎馬武者二十六騎。次舟を打く侍大将孝高。法正。中。小。俺。守
 たる。醫師三人。西具雜人。遠隊の惣勢一千餘人。才二番に。陣。頭。又。子。福。田
 青山河。二の隊の部伍一千餘人。遠隊の軍中。附。所。使。者。等。三十人。医。者。の。侍
 才三番。八。濱。野。弘。之。清。長。政。中。村。深。平。治。を。守。將。と。し。て。其。隊。の。勢。を。二。千
 餘人。遠。逸。列。く。打。せ。り。四。番。の。羽。柴。が。旗。本。に。し。く。正。魁。小。香。統。四。十
 人。これ。小。掌。使。成。り。中。条。又。兵。衛。成。り。と。せ。たり。二。番。次。の。持。り。四
 十張。摺。く。排。せ。り。て。奉。攻。軍。才。二。萬。七。千。餘。人。梶。原。景。時。次。長。義
 十二條。更。の。神。子。田。守。左。衛。門。次。小。標。成。り。大。旗。の。過。日。濃。別。致。及。改。に。將。佐
 と。救。ひ。し。切。ふ。り。信。長。より。許。され。り。青。黄。赤。白。黒。の。吹。貫。を。り。昔
 此。邊。小。う。り。く。變。り。る。後。小。攻。あ。る。不。急。深。次。小。其。声。十。里。に。遠。く。也。

と大鼓を四角小鼓に小鼓と号令執業次小鬼神も恐怖しぬ
 加藤虎之物清正茶臼法をして打せり。井上本村が猛勇烈
 士廿六人騎連なり。此間小督精河津士等次小黒白の幟二本。次小行
 の旗本勢ハ福考片桐脇坂青木各自勢を率從一區意小威振り
 此間大將の次小青黄赤の大旗之翻。天地人を像たり。其旗其蹟小
 施二輛の車。紅と太鼓を左右小載り。は車施二人和音次小渡野法
 吹りせり。其声江山を奮ふが如し。形弓故矢のきらり。あらい調を懸
 けしけさせり。弓二張矢二十四番續て鐵槍鐵櫃石砲多し。小銃系
 大筒二丁ハ赤空の車小のせり。是と牛小等も奉行人も相替礮をて拖せり。これハ殺器小勢
 て。雪月花折もあざむく。尾流の少年十八人。石田佐左衛門
 兼なり。次小編系山原城の機會。親くまら。親小一戦ごの

勝利を證して。今ハ數百の子城添たり。子成瓢の馬懐茂旭光小
 朝く輝をせり。遠次ハ是中國の探題當時小谷の城主とく
 二十万餘石を領持をま。羽柴筑前守秀右。身小ハ解威の糧を
 一。腰小ハ主君より賜りて。黄金作の佩刀。圓行を。蜀錦の
 輕履を。瑞正に紅く佩。鞆鞆うらうら。之味。虎爪を。て。近士
 小持し。奥陸生の七寸小あまる。村ると号け。續足小。操然と
 て。うち跨り。地を揺り。騎出。色。城。護。る。股。肱。の。衣。士。ハ。お
 り。ひ。く。れ。幟。幟。甲。冑。點。流。光。を。放。ち。大。將。の。威。威。増。補。せ。り。次。小。ハ
 騎。替。足。共。馬。足。等。馬。醫。伯。樂。を。加。へ。せ。總。勢。二。千。餘。人。なり。并。五。番。小。ハ
 船。隊。ハ。位。部。堂。主。ハ。右。井。又。左。郎。遠。隊。小。屬。より。歩。行。武。者。ハ。浪。を
 画。き。一。幟。幟。と。く。四。十。餘。人。の。勇。士。と。率。ひ。其。勢。一。千。餘。人。なり。才。六。萬



豊臣四将の陣

四



織田殿城を
出利樂秀
吉播州下向の
行列を見督
したまふ

豊臣四将の陣

四

小八松原七郎右衛門長房一千餘人遊軍より。予七番小松原雜物
 又百餘人を列行させ。牙八番の距後へ竹中半兵衛重治一千餘人
 統領して。遠八檀の徳勢都合一万二千五百餘騎。一萬二千五百餘騎
 を整へ。然し。誠小希有の行旅なり。信長公にも中國九川河掌不
 入るに最功あり。征伐に茂進をまゐ。まづうら進士派員一あり
 羽柴が出陣目送のため。且へ行旅亦見警として才途まゝ出む。ひ
 范守守が陣列の。魏く顔を見覽あり。竹井夕庵に向へせむ。ひ
 秀吉が軍威尋常より。西國征伐十分の。勝利を得ること疑ひ
 あり。と傾聴し。て感佩しむ。ひ。又輒然と笑をせむ。小松原閑候。こ
 小新し。といふ。され。那まで。に。河橋。強。禁。ふ。ま。ま。女。と。ま。ま。め。と。向
 た。ま。ま。は。ま。ま。懸。頭。多。い。彼。秀。吉。が。其。原。八。姓。氏。も。長。生。も。後。り。か。り

予に勤士して二十年軍功指もく。其。ま。ま。く。然。も。忠。信。義。を。分。り。
 予。れ。ま。ま。く。諸。氏。下。に。救。て。自。軍。の。敗。軍。を。勝。志。む。る。こ。の。多
 かり。る。ん。汝。候。も。り。見。聞。し。は。と。ん。日。月。も。小。ま。ま。か。り。て。今。の
 我。及。の。大。將。と。なり。柴。田。に。も。猶。者。る。六。七。下。終。小。中。國。に。探。題。と。し
 今。日。出。陣。の。威。風。極。勢。遠。行。旅。視。お。つ。け。昔。本。下。後。者。派。と
 て。駛。率。たり。し。偉。を。あ。り。ひ。い。ご。し。誠。小。人。の。姿。に。も。り。後。面。矮。材。に
 藤。吉。取。も。羽。柴。范。前。守。と。考。録。せ。し。ま。き。救。万。騎。の。隊。小。主。將。と。し
 茂。後。し。ゆ。る。所。見。の。魏。氣。凛。と。備。て。拔。群。れ。大。將。と。り。ん。の。り
 ぞ。し。遠。故。小。小。様。と。呼。び。昔。代。かり。ひ。一。笑。せ。り。と。宣。ふ。く。氣。色。ま
 ま。し。義。々。く。安。土。一。漸。降。城。ま。ま。と。る。然。や。と。小。秀。吉。八。月。七
 日。接。川。に。下。る。し。柏。若。が。館。を。本。陣。と。し。黒。山。官。去。備。隊。叙。と。し。國

中の諸士食出仕しく。到先の義を祝賀せり。响小秀右諸將小
 儀ハ中國退治の事決議せし。然る小大内山城守の主人長治代名代
 として、遠座小連をけりたるが、秀右既として是代見く山城守小
 りち向ひ。遠遭中國征伐ハ單小別所のカを括む乃夫中國の探題
 として。當國下向をといひも導路師といひ先切をき定てよ
 んに計策何ん心底残は深らる處し。とまうま小大内山城守
 進出く座をさふし。開中國の毛利家ハ山陰山陽大梁掌小
 入ま。回國九州も過すハ服を。然バ今般の戦場ハ一國一郡の小款に。
 向ふとの殊変を。格別の准儀ふらんバわ。勝右川小早川の智勇
 を双の良將あり。領國の兵ハ二万小餘を。絶倫の謀士勇将あり。
 こまのの軍心一統し。要崖小據り。拒抗を。容易礼入をりる

かろん。然る後將佐ハ小勢にして。不和業内の人々多し。これを
 て試る胸の急小進む張りしを。殺すも難處も多し。小款
 挑しく進まむ。よろし。かろんと。詞を巧小。中國勢に威をりせ
 二方勢を怖し。る色バ。秀右情し。と。か。り。ひ。な。う。う。色にも。人
 び。うち。笑。ひ。毛。利。家。勇。猛。さ。り。とい。へ。も。大。款。を。ん。ぞ。怖。る。を。逆
 水の石流漂をも。皆これ自然勢ひあり。合戦ハ勢にまらふハ
 とも。後。軍。せん。こ。ろ。弱。將。庸。愚。の。所。為。あり。利。や。寡。派。も。て
 衆。兵。勢。を。や。後。と。せ。バ。自。軍。統。して。款。軍。小。氣。を。吞。ふ。し。ま。る。不。和
 業内と怖き。争でる。遠國を征せらる。處に。そ。ま。か。た。め。の。郷。道。守
 り。各。進。ん。ぶ。踏。伐。教。ハ。款。小。向。て。の。務。敗。ハ。極。家。が。得。る。不。和。り。
 こ。ま。の。事。小。氣。煩。を。ん。急。に。進。發。の。准。儀。の。き。と。ま。う。ま。不。返。を

詞もさく評議畢てく金各后城へ帰るなり。中不統て別所
 の一族を山の丸小集會山城守賀相衆小向ふて發言せしむ
 今日秀右軍評議と号張つけく。城主國人を呼集め其行状の
 失教を禮俺們をもて家臣の如くは。衆も秀右不統同佐長の表裏
 中一の大将をさへ當家をもつて懸軍張みさせ中國還治して後ハ
 却て別所家も亡して播磨一圓秀右小興えんとこそ謀るなりぬ
 かるがを秀右荒帯もその地意あるなりぬ。かの法もこれ法をさ
 ものありん。所詮渠儂が匹夫匹婦恃之中國勢に向へんこと。敗れ
 せんのみ定まり。然も毛利家別所を憎む。改易らる時不及を
 終ふに滅亡の緒とありん。如比中國勅力の義と立速に秀右を
 政担て毛利之家を背楯と。京都(舊地)小改登る。大事勿地

成統志ぬる。こそ大丈夫の趣意なりぬや。とまりて不統之宅
 肥前守命せの如く羽柴が行状。失禮鶴懐を扱せり。我國小貴
 賤を論せしむといへども。渠は原足信長の使率。こそ小轉變當家
 の系圖の村と天皇の後流小く。赤松氏族の歴あり。別所や東
 播八郡二本明石加東加西加古多可。小主する別所なりぬ。めを渠儂如
 子の匹夫がたぬ。指揮を受て所留なり。聞も莫く賜断し。快
 新属の許准使何と。勅めたるに。長治治定山城守の後護といひ
 伯父にして老功なり。肥前守の長長なり。年早さ身のいへせん。遂に
 渠儂が謀叛小随ひ。羽柴張敵人と評議定する。响小茅小八郎治定
 生年僅十七。角髪みきとも才勇勝多。軍慮かり。これ少年子
 是。進み出て山城守にうち倭ひ。兵の神速張号む。先むる响。他と

制を既小斯の如く定まるる人、片時もたらく秀吉に、段捕
 むんバ討策漏まき、軍の利十分ならん。款小准儀のありざる
 うち、不意小推進せ、段をよと。鏡然とて、勅め々々、大内三宅、那
 期小登びて、秀吉去、年淳回勢と、一挙小破り、威に怖き人、
 合戦するも、氣味多く、出軍の事小進まば、牢城を、て毛利
 家此、後援、怯むべし、小決議。まぐ毛利家へ使者を遣て、遠東
 戦もく、謂通、下、次小一族、旗下一廻文を、出、謀合を、大家へ居、城小
 疑、ちる、く、小家へ二本へ、来、る、留、す、款、進、来、る、那、般、く、遠、那、く、
 せ、よ、と、後、し、り、し、る、小、家、の、軍、ハ、二、本、へ、来、る、ま、つ、別、牢、城、の、人、の、志、敢、
 流布に、志、方、と、め、る、の、城、小、掃、掃、左、系、進、神、吉、小、南、郡、の、城、小、ハ、神、吉、民、
 部、少、補、淡、河、二本郡小の、城、に、ハ、淡、河、彈、正、高、砂、郡、此、城、小、梶、原、平、三、

去清野、口郡の、城、小、ハ、長、井、四、郎、左、衛、門、湯、若、二本郡にあり、湯若に設けり、城、小、ハ、夜
 以、之、豊、前、吉、俊、自、勢、張、り、し、く、牢、城、を、二、本、合、山、の、本、城、に、ハ、旗
 下、此、軍、勢、七、子、餘、騎、小、を、糧、矢、銃、も、これ、小、準、ト、牢、城、堅、固、を、り
 ける、こと、十、策、美、善、成、を、さ、る、も、隔、ち、中、り、に、見、え、り、々、々、
 後、藤、基、國、決、信、義、諫、長、治、属、託、子、是、田
 朱、雲、の、敵、の、檻、を、折、那、憲、の、車、の、鞅、と、斬、厥、ハ、君、王、成、諫、諱、を、さ、れ
 べ、忠、信、と、獨、ま、さ、る、し、小、賞、い、す、と、多、切、り、さ、る、に、義、と、別、ふ、り、て
 その、主、成、大、小、陳、む、ら、一、勇、士、あり、名、成、後、若、將、監、基、國、と、い、ふ、大、藏
 是、之、の、口、代、の、色、の、左、大、臣、數、者、之、の、苗、裔、義、を、も、つ、て、さ、る、駒、ハ、金、石、も、猶、勝、り、
 義、利、仁、の、法、疎、ゆ、て、又、去、湯、基、次、の、実、父、と、
 と、せ、び、信、と、も、つ、く、さ、る、駒、ハ、繩、尺、も、亦、直、し、と、せ、び、然、る、に、基、國、今
 大、内、が、跋、企、成、別、所、家、の、滅、亡、と、察、知、し、々、々、バ、城、主、長、治、が、亦、小、出

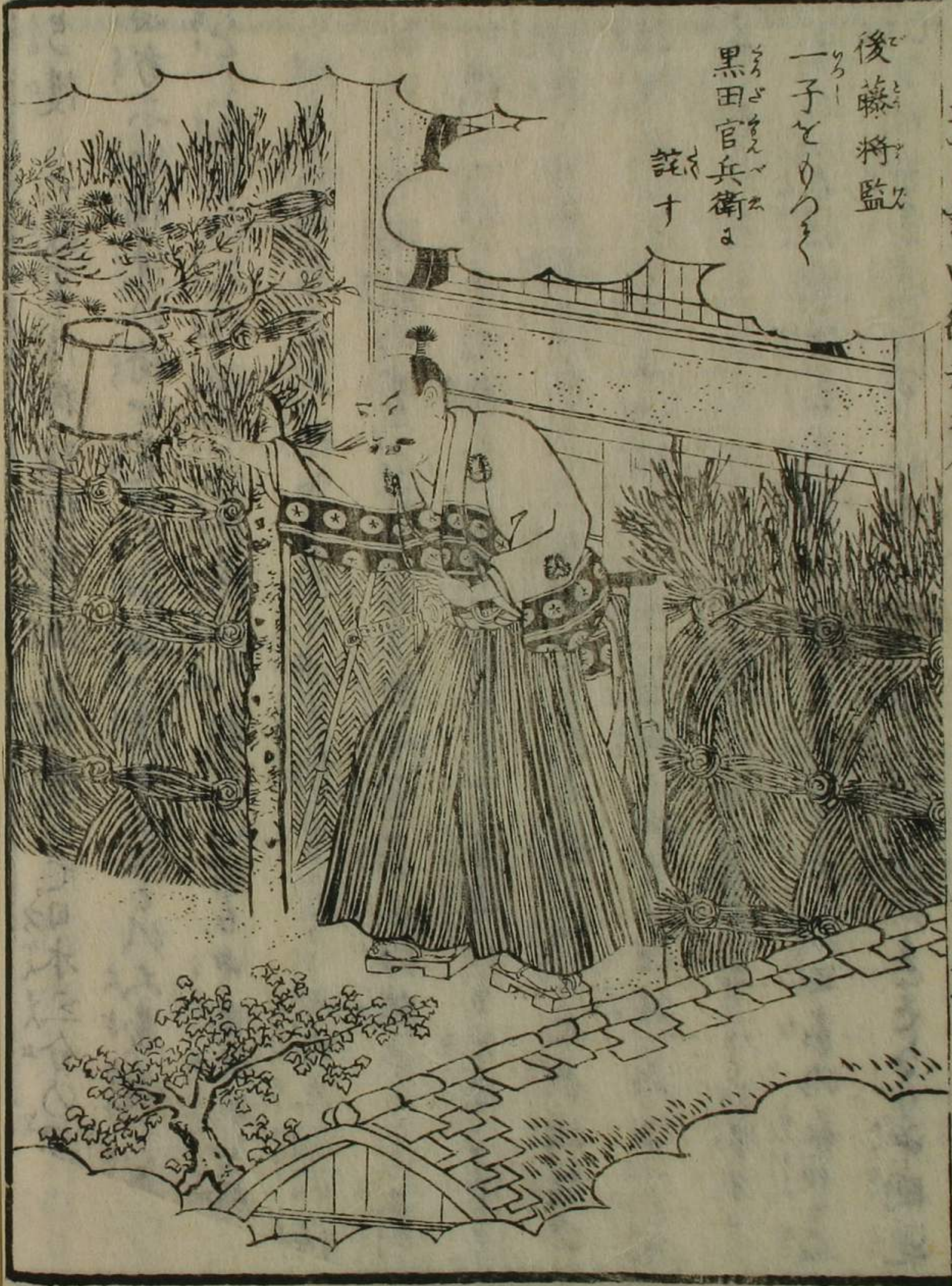
今信長の手紙ありて謀反の企てありと云ふ。快秀吉に随ひて
万全ありと諫言を。長治生年廿一歳にして心合ふ及むれば
是成決まること能く。伯父賀相小高禪志を。山城守六子
怒り。衆人斯まで一致して既小宰城と定りたるは。誰妨けて不
吉を勅め。諸士の心成惑えさむる。をんぞ再禪ふ及ぶ。死と
席を敲いて。謂破ま。後孫基國実と進出。遠義を勅め。さ
せり。斯うして後孫基國あり。身不骨をさとも別所のため。小
誠信忠義を竭すこと。者の知るべきなり。その忠信もて考れば
遠遭此敗。企の別所家の滅亡の禍と存むるのみ。諫言するは。不
小。遠宰城の難うたわの。報難辛若に。いぞや。全く家名相續
せんとも。諫言す。不順ひ。や。小わ。い。ば。儀。回。信。長。の。今。既。小。天。子。と

ち。護。して。政。事。成。料理。位。從。二。位。小。昇。進。して。日。本。三。分。の。一。成。振。り。
四方小進補佐の將を定め。四海一統をさんと。大義漸く成就す
を。然るも先利輝元。軍威弘大なりといへども。中國十割を領し
ながら。一割國意く。平法を。治す。礼あるのみ。四海九割に。後
敵ありて。鬪戦の事。志を。く。なり。從。令。當。家。小。後。援。する。も。九。割
の。款。小。心。あり。して。長。く。の。出。陣。し。て。ま。ま。と。速。速。に。も。出。來。る。ま。と。
信長の自身安座を。諸將をも。の。款。を。伐。め。其。後。弱。の
注。伸。ふ。り。を。秀。右。備。難。危。と。听。バ。子。速。く。の。後。援。と。す。小。別。所
家。一。郡。の。兵。を。も。つ。て。天。下。の。將。と。戦。ん。こと。准。ふ。處。と。い。ふ。も。と。
ま。い。加。之。根。柴。秀。右。早。賊。り。出。る。今。い。は。る。儀。回。家。の。長。也。及
び。な。れ。出。身。遠。近。を。し。たり。し。こと。皆。是。智。謀。の。を。を。り。中。國。選

後藤將監

一子とゆつ

黒田官兵衛
説十



治此大将小遣をさうく不どの悪量おきをこそ。信長もこれをその任
 に當其身も大張毛利家と。敵討を命じたり簡何をして。案内も知
 らぬ西國へ主命受く下向する。大膽不敵の秀吉といふも容易
 毆捕らるるごきこそ。成も何と索する响ひつまでも。織田家に帰順し
 羽柴に懇志を通せんご。滅小當家此大毒なり。信長表裏此人なり
 とも。今一言ごも川く。天下に指揮する大将なり。賞罰の罰不依
 怙あふ。誰か織田家に順ふるに當家随分忠誠竭さる。信長當家
 を亡さんとごきといふも。天道ごきを弄むと。今信長小遣ひあつた
 天に順ふ道理有り。枉て心成翻し謀及の企を止むと。詞をそめて練辭
 志はる。然も人肉三宅の友人これを拒て更不順いば却て怒り
 罵り。さまへ基國志なく嘆息し。別所の家運もこそさうごあつた。

力あつて退出は將監五十年に及ぶまゝ。家成継るご子のあつた
 一が平生ごきと悲嘆し。神佛おや行ごらん老年にして一男も成
 儲けく。花月此羅より猶愛がり。丹誠ごも川く養育したる小い歳
 十二歳の妻成経ぬるご。又智万人に勝れば。怒りご猶念倍て遠
 殺此謀及牢城小も。自己の死をさ免期をさう。只此一子を徒小殺さ
 んごこの勳ましく。義氣鉄石の忠臣も。父子此恩を小心魂迷ひ。熟
 こふのい轉らるに。我原別所の家成に何く。旗下たる道成を
 り。バこそ忠義を掲して。練辭するに。涙ひさる。自滅小遣。我
 今こそ小従ふも。天小背の道理をがら。旗下する道成をがら。也
 忍小。牢城此伴小相加る。まご二五の世の人小。命を惜む。臆病軍ご
 嘆をまへんごこの朽滅した。我一人の義のため。我死するに。嘆ご

々下と切て一子を助止後後の家名を續せしと獨心孤國志あり
 ぐ意にうらむこと何をけま六十二歳よりなる甚太師を其父情に
 地小伴多き金山の城を出る田宮を清が許小来る遠高と
 基國と八原末新金の深文たりしが今の對款の人とされし然と
 も若の好おまきバと急於孝高が居宅に到り困室小投て他を陰を
 山城守が初め小よりて長治兄舟織田家に背き謀反の中を精
 しく諱り乃更美論く諫言をれども諸士會大内を控威不怖を
 借に牢城と決定せりこまふよりて乃夫も旗下の信義并げ
 々まバを益の敗企と知りながら牢城の列小加りて我死せんと
 覺期り。這ふむと山の痛まりたの老後小儲けし一個の自亂を
 不義の牢城小止置くと殺さんとの朽滅く子に速むれ親流情

とまうと枉く道理破れけ情に地小自亂を休むより乃天戰
 死して後の親族もなれ孤なきバ誰か悲愍致惠さんやと後
 世の傳まると心小懸り止とて代得は恃據まゆらふとどか未
 練とおがしめさん日來の好意を并ぶとて乃自亂を
 育あつと他年武士とも成ぬ。後後の家名代継せむと後
 百生まで受恩を謝せし他軍自軍とある官を清に孫に清に
 恃恃を殘をこしゆと切なる心のうち清推量まこれと西の
 眼小清と浮ぬ。捨小儲義なきどつえとりたる孝高原來仁智
 け士あり。後孫一を二の友なきバ樂が信義を知ると西の
 清をもあしめて堅く此傳を受諾し。猶又子共に配々へとこ
 まく初め勤めたるも義氣不疑する將監基國子は清恃

純く死せんと言新由忍官之清まじく義心成感ト
憾之勇士を不道の祥小戦死さるる殘念さまと雲時嘆息は
たりたるが精あつて後藤小向ひ足下此是期今更に調解成死
中り嘗くさかま六是まこ是非もなれば決意なり我もまことの
信持河を定て之本の軍城小の粕谷兵清友正もあがりせし是
下も願くさかま六如く我も六因縁もあるのまじく殊小懇志成通せし
文由急遠方へ招き寄るかも下も。業も別義の勇士なればむと業
意いことす。業が別父同服の舎弟に粕谷助右清門といふものあ
る。母方の扶助を蒙りて成長せし者なれば別所小討し七恩義
も篤し。兄友正の縁せむば切りに助右清門一個なりとも出来さや
足下も依りてこれ成傳言して去るる。通小今生此熱熱涼切

報し畢る可み人ともうさ成听后後着將監清信の糸くは
得まりたり。頼く一筆贈らま。といふ致給ふりと官を衛書
を折簡を書記通々ふぞ。甚國兼收襟中を。現を此急會こ
れ期も親しく詞譚合ことも。明日ハ悲しや他軍自軍備機會
ゆへ清の小菟も死の成清誠にけり。と涙を笑ひ小結りて
別辞成報くま出ま。孝高も悲嘆なぐる門の外まで送る情
残れと盡る期なま。かく別を帰りけり。

繪本豊后勳功記四編卷之八終

